

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490  
 FAX (078) 361-4539  
 編集 「月報」編集委員 振替口座 01110-2-10517

## 2012年1月 謹賀新年

### 「新しい天」と「新しい地」 ～ 涙を拭ってくださる神と共に ～

司祭 ミカエル 小南 晃

わたしは、また、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや、海もなくなった…。

その時、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとく拭い取ってくださる。もはや死もなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初ものは過ぎ去ったからである」。(ヨハネの黙示録 21:1.3-5)

救い主の御降誕の恵みを感謝し、また、新年のご挨拶をさせていただきます。

今年は、ちょうど「主日」、日曜日から始まります。例年にも増して、心機一転、新たなスタートを切る年としたいものです。しかし言うまでもなく、昨年は東日本大震災という未曾有の災害を被った悲劇の年でした。昨年の3月11日以降、日本聖公会・神戸教区、そして当教会においても、東日本大震災は常に念頭において来ました。それは新しい年を迎えたからといって、忘れてよいものでは到底ありません。

しかし、新たな年を迎えて、そうした被災者に寄り添う思いや支援と同時に、その東日本大震災の悲劇を通して得た気づきを生かす、新たな生き方、行動へと歩み出したいものと思います。

#### 「絆」の大切さへの気づき

毎年、その年の漢字が選ばれていますが、昨年は「絆」という漢字が選ばれました。それは未曾有の災害と犠牲を前にして、多くの

人々が改めて家族や友人といった身近な人々の命や絆の大切さに気付いたことにあります。そしてこの気づきは犠牲者の死を空しくしないための大切な一歩でもあります。

昨年7月の神戸教区宣教協議会に始まって、今年は、各教会また信徒一人ひとりが、宣教について真剣に考えることが課題となっています。この宣教について考える際に、中村教区主教は、「全聖公会宣教宣言を念頭に置くように」と言われています。

全聖公会宣教宣言とは、1) よきおとずれを様々な場で証しする。2) ひとりでも多くの人をキリストへと導き、育てる。3) 愛の奉仕によって、苦しみ、悩みのなかにある人たちの必要に応える。4) 愛の絆で結ばれた社会作りに参与する。5) 自然と共生することにより、地球の命を守り、育む。—というものです。

東日本大震災の悲劇を通して得た気づきが「絆」であったということ、また福島第1原発事故による放射能汚染を前に、「自然と共生することにより、地球の命を守

り、育む」ということが、緊急の課題となっていること、これらのことは「時代のしるし」なのかも知れません。

#### 宣教は愛と憐みから

ところで1月1日は「主イエス命名日」ですが、神の御子の名としては、マタイ1:23に、「インマヌエル」という名が出て参ります。その意味は「神は我々と共におられる」というものです。また「イエス」という名は「救い」または「主は救われる」という意味の名前です。私たちがこの「イエス」の名によって救われる、さらに「イエス」の名を宣べ伝えるという時、主イエスがどれほどの愛を私たちに注いでおられるかを思い起こし、そしてその愛と憐み、赦しを宣べ伝えることでもあります。

主イエスは群衆を見て、彼らの飼い主のいない羊のような有様に深く憐れられました(マタイ9:36)。それはご自分のはらわたが震え、痛むほどの深い思いでした。主イエスの宣教の原動力は、私たち人間への深い憐れみと愛なのです。

新しい年を迎えるにあたって、私たちの心にもその愛を増して頂きたいと思います。そして私たちが、悲しみ、苦しむ人々に寄り添うことが出来ますように、そしてそれらの涙は救い主によって必ず拭い取られ、新しい天と新しい地が来るという喜ばしいおとずれを証しして参れますように、共に祈り求めたいと思います。

#### 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
 " 9時15分 教会学校  
 " 10時30分 聖餐式・説教  
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
 土 午前10時30分 教会掃除  
 (ご奉仕をお願いします)